

東京山桜会

第59回東京山桜会総会

佐伯 文子 (大手前中・高19期)

平成28年5月21日(土)銀座ライオンクラシックホールにて東京山桜会総会が参加者65名で盛大に開催されました。大阪からは役員、恩師を始め19名の方々に出席頂き有難うございました。学院理事長川原氏、山桜会会長平泉氏、副会長中川氏に加えて今回から大学校友会林田会長と同東京支部長島田氏や、小学校長東田先生、大手前中高校長木内先生、茨木中高校長住谷先生、恩師の橋本先生などの賑やかな顔ぶれが揃いました。第1部の総会の始めに東京山桜会の山根会長から挨拶があり、引き続き来賓各位から追手門学院の近況、山桜会100周年に向けての案内、大学が50周年となったことなどについてお話を拝聴しました。臨席の来賓の紹介に続き、今回は東田充司校長による「追手門学院のルーツ・歴史・そして今」というテーマの講演がありました。27枚にわたる写真などを1枚にまとめた資料が配布され、創設者高島鞆之助先生による明治21年の大阪偕行社付属小学校設立から今日に至る歴史、「国家有意の人材の育成」という教育理念、ルーツは薩摩藩の「郷中教育」など誇り高き母校の話を、分かりやすく皆が納得出来るように講演して頂きました。全員の集合写真撮影をはさんで第2部の懇親会は山桜会中川厚子副会長の乾杯の発声で始まり

ました。今回は特別に大阪の71期生中島規夫氏に「マジック&南京玉すだれショー」をお願いして、驚いたり笑ったりの中で美味しい料理に舌鼓を打ちながら話に花を咲かせて楽しい時間を過ごしました。最後に東田校長先生と甲谷富佐子氏の音頭で偕行社付属小学校校歌と追手門学院校歌を斉唱して盛会の内にお開きとなりました。なお、平成29年5月20日開催予定の東京山桜会は第60回目の節目の記念総会となりますので、是非皆様奮ってご参加の程お願い申し上げます。お待ちしております。



東京山桜会

平成29年新年会

一般会員歓迎!

時期 平成29年2月11日(土) 12時~14時

場所 横浜ベイシェラトン&タワーズ10F「ベイビュー」

第60回東京山桜会総会・懇親会

大歓迎!

時期 平成29年5月20日(土) 12時~14時30分

場所 銀座ライオンクラシックホール

問合せ先 東京山桜会事務局 松村 清一 (小71・中高14期) TEL : 090-9397-2759

土居年樹さんとの思い出

宮田 俊志 (中高3期)



平成26年度高島鞆之助賞を受賞された土居氏

土居氏は追手門学院(大手前)の中学・高校の同窓生で、私達が調度高校3期生で、上級生がこれで1、2、3年全員が揃い運動部の部活出来ると大変喜んでくださった事を思い出します。

真の親友とは、私は追手門学院に行き、彼に会った事が、大親友の付き合いだと思っております。ちょうど昭和から平成にうつる約30年前のことでしたが、「俺、今度、天神橋筋商店街で理事長になるので、お前も千林商店街の理事長をして、2人で商店街から大阪の活性化をやって行こうよ!」という誘いを受けて私も千林商店街の理事長に成りました。平成に入ると「俺、今度大阪商工会議所の議員成ったので、お前も選挙に立候補して議員に成れば」と言う事で土居氏と共に議員にも成り、その後当時の佐藤会頭(京阪電鉄CEO)から推薦して頂き2人共大阪商工会議所常議員に任命されました。

商工会議所といえば、初代五代会頭から始まり 現在では3万人からなる法人の会社の方がメンバーでその中でも280名の方が選挙で選ばれ、その中で28名の方が常議員で、二人で活動しておりました。もし次回の人事移動の時は、必ず土居氏を推薦してトップの会頭になっていたと予定でありました。もし、土居氏が会頭に成れば、日本から初めての「小売店から出た会頭として、又、追手門学院卒業生として、今迄の大阪の歴史が変わっていくと大いに期待しておりましたが、こんな結果と相成りすごく残念です。彼程の人望の厚い、心の優しい人は他にありませんでした。あの天満宮の境内に落語の殿堂「繁昌亭」を行政の力にも頼らず、主になって事業家の手で建てたのも彼でした。又、大阪の天神祭を日本三大祭まで持ち上げてくださったのも、彼の力に拠るところが多々ありました。このように色々な行事をやり遂げた人ですから、後はあの世で心置きなくゆっくりとされることを、心よりお祈り致して土居年樹氏の思い出の記と致します。 合 掌

中田 武仁さんを偲んで

寺本 隆雄 (中・高4期)

中田 武仁さんが逝った。悲しくてやりきれない思いです。

父上は大阪府議会議長として、亦、ご母堂は調停委員の要職を務められた両親の末っ子として、昭和12年に誕生されました。父上、中田守雄様は偕行社を、兵養成学校と決めつける進駐軍と決然と対峙され、初代理事長として校名も追手門として我らが母校を残されました。中学部、高等学部時代は多くの時間を彼の実家で過ごし多く知恵を授かりました。長じて一女、一男を授かり愛息厚仁様は、国連ボランティア員としてカンボジアに赴き、任務遂行中凶弾に倒れました。

父武仁さんは毅然とした態度で悲劇と対峙、愛息の平和を願う思いを尊重し、ボランティアのバックアップとしてより多くのボランティアを輩出すべく、「中田厚仁基金」を創設しボランティアの援助に身を捧げました。またこの年を「国際ボランティア元年」として国連に認められ、世界中のボランティア援助に勤めたのです。

余人をもって代え難い彼の正義感を多くのボランティアに携わる人々に捧げると共に心からご冥福を祈ります。



国連ボランティアとしての思い出を語る中田武仁終身名誉大使。手前の写真は長男厚仁さん=東京都渋谷区の国連大学で2008年4月

山桜会ホームページでもご覧いただけます。